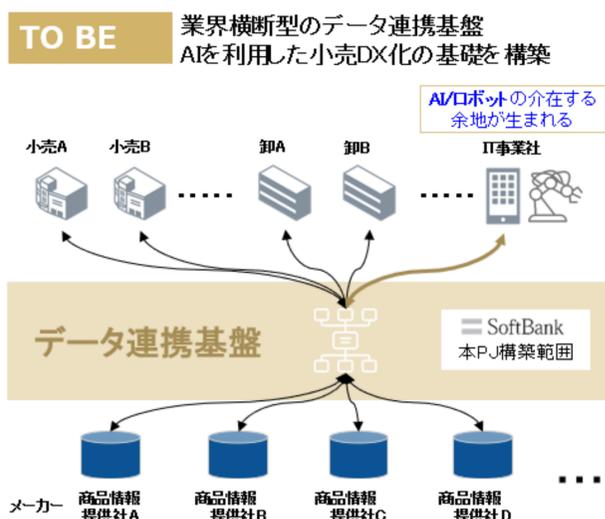
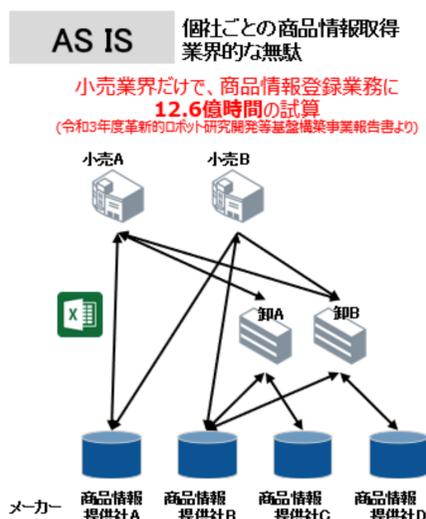


商品情報データベース構築のための研究開発

データ連携基盤開発と有効性検証

目指す将来像

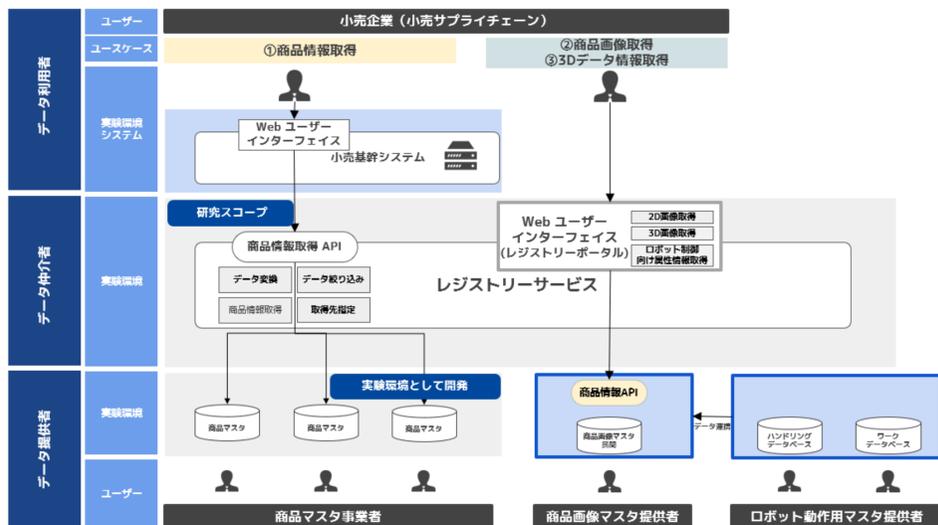


小売業界では、決済や在庫管理・陳列に多くの人手が必要で、慢性的な人手不足が問題です。ネットスーパーの普及により、店舗ピッキングの業務も増加し、業務効率化の重要性が高まっています。ロボットの活用が有効な対策とされていますが、国内での導入は限定的です。AI学習用データベースの整備が重要で、レジストリー方式で効率的に商品情報を取得・活用する仕組みが求められています。

ここが凄い!!

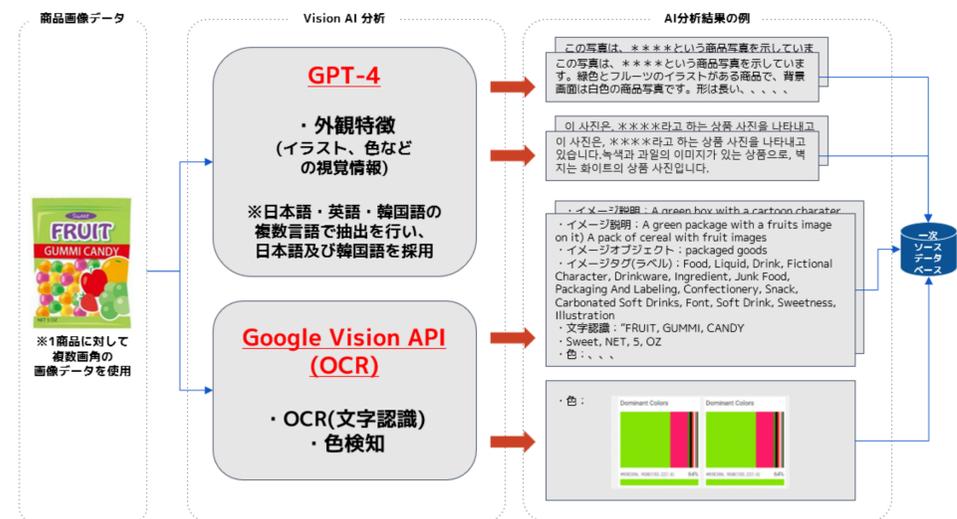
■商品情報データ連携基盤（レジストリー）開発

レジストリーは、小売企業や卸業者と業界データベース事業者やメーカー間で商品情報と画像データのデータ流通をサポートするサービスです。データの生成・管理は提供者が担当し、レジストリーはデータ仲介に注力します。APIを用いてリアルタイムでデータ連携し、共通フォーマットへの変換や適切なデータ抽出を行い、効率的なデータ流通を目指します。



■商品情報・画像データベース有効性検証（画像データを活用した商品外観特徴抽出）

形状・イラストなどの特徴点抽出としてGPT-4、
文字認識・色検知としてGoogle Vision API(OCR)を利用



※「AI分析結果の例」は机上検討時のイメージとなり、実際の分析データとは異なります。

商品の外観特徴を抽出・言語化し、商品検索やレコメンドなどのユースケースを想定した検証を実施しています。将来的にはロボットによる接客業務やEC・ネットスーパー上での商品検索・提案サービスへの応用を目指しています。生成AIで商品の形状やパッケージイラストなどの外観情報をデータ化し、OCR技術で文字列や色情報を補完します。これにより、商品の見た目に関する情報のデータ化・活用が可能になります。